

平成**年度 茶園関係 除草剤 適用性試験成績書

薬剤名 ABC-123 剤型 液	試験機関 〇〇県園芸試験場
有効成分 XXX 10%	担当者名 植調 太郎、牛久 花子
及び含有率	試験圃場名 場内圃場
ロット番号 XYZ1234	圃場所在地 〇〇県◎◎市●●

試験目的：**春期処理での除草効果、薬害の検討**

試験途中に担当者が異動した場合は、前任者名も併記する。

I. 試験圃場等の概況

- 供試品種 やぶきた 樹齢 4 年生 樹高 60 cm
- 栽培様式 うね幅 180 cm うね間 160 cm 仕立て方 自然仕立て
- 供試面積 1区面積 9 m² (植栽面積 1 m²・散布面積 8 m²) 処理反復数 2 反復
- 土壌及び地況 (土壌処理試験) 土質・土性 液 腐植含量* 3.5%
pH* 5.8 処理時の土壌の乾湿 乾 傾斜の程度 平坦地 *分かれば記入する
- 供試圃場の前歴：前回 (*10年 8月) に使用した除草剤名 (@@液剤), 使用量 (500mL/10a)
- 処理前後の気象条件 (○印処理日)

月 日	5/23	24	25	26	27	○28	29	30	31	6/1	2	3	4	5	6
最高気温(°C)	24.2	24.1	21.1	27.5	28.8	18.8	20.0	21.9	21.8	22.9	23.6	22.5	23.1	25.4	26.0
最低気温(°C)	12.4	16.0	15.4	14.8	13.4	14.1	12.7	13.7	12.8	12.6	15.2	15.1	16.2	14.9	17.2
降水量(mm)			112			25			3						16

7. 試験実施上の特記事項

病害, 災害, 気象条件等：処理日の降雨は処理後8時間以降のもので、試験への影響はない。

栽培管理など：害虫防除の為、6月6日に〇〇を500mL(水量300L)散布した。

II. 処理方法と試験区

- 処理方法 茎葉処理 処理 処理時期 春 期 5 月 28 日
- 試験区

番号	薬剤名	薬量(10a)	水量(10a)	散布方法	処理時の茶の生育	処理時の雑草の生育
1.	無処理(放任)	—	—	散布機の機種 畜圧式噴霧器 散布ノズル 専用ノズル 散布圧 3.5kgf/cm² 飛散防止カバー 有 展着剤 無	生育段階： <u>萌芽前</u> <u>萌芽期</u> <u>10</u> 葉展開期	発生状況： 多発 <u>北刈</u> 優先(被度 30%) 草高(科)：約 <u>25</u> cm 広葉：約 <u>15</u> cm
2.	ABC-123 液	300mL	100mL		新芽長：約 <u>10</u> cm	
3.		300mL	150mL		摘採後日数： <u> </u> 日	
4.		500mL	100mL			
5.	対) DEF 液	300mL	100mL			

III. 試験成績

- 雑草発生量 (土壌処理) または残草量 (茎葉処理) (調査期日 6月12日, 処理後 15日)

区番号	イネ科雑草 (/m ²)				広葉雑草 (/m ²)				合計 (/m ²)	備考
	北刈	コホコリ	その他	計	サカユ	ハコ	その他	計		
1.	412本	114本	13本	539本	176本	164本	20本	360本	899本	「その他」の草種名： スズメノカタビラ
	263g	11g	3g	277g	114g	126g	16g	256g	533g	
2.	2%	4%	5%	2%	0%	1%	41%	3%	3%	スズメノテッポウ
3.	4	1	3	4	0	1	23	1	3	オランダミミナグサ
4.	2	13	2	3	0	1	20	2	2	ツクシ
5.	3	2	6	3	1	1	26	2	2	クマノヒゲ

四小無捨数処五点理入区下対比の

平成**年度 茶園関係 除草剤 適用性試験成績書

2. 抑草効果 優占草種名；イネ科 ヒシバ 非イネ科 ザクザク、ハコ

区番号	効果発現日数 (茎葉処理)		再生開始日数 (茎葉処理)		発生開始日数 (土壌処理)		抑草期間	
	イネ科	非イネ科	イネ科	非イネ科	イネ科	非イネ科	イネ科	非イネ科
2.	2日	2日	20日	15日	日	日	25日以上	20日以上
3.	2日	2日	20日	15日			25日以上	20日以上
4.	2日	2日	20日	15日			25日以上	20日以上
5.	2日	2日	20日	15日			25日以上	20日以上

注) 試験の対象とする優占草種について処理後日数を記入, 抑草期間は正常な生育を開始するまでの日数

3. 効果の高い草種と低い草種 (雑草名を記入)

効果の高い草種		効果の低い草種	
イネ科雑草	非イネ科雑草	イネ科雑草	非イネ科雑草
ヒシバ、コホコリ、 スズメノカタビラ、 スズメノテッポウ	ザクザク、ハコ オランダミナモト タニシバ		ツクシ

4. 茶樹・茶葉に対する薬害 (発生しなかった場合は無と記入)

区番号	第1回調査(6月10日)		第2回調査(6月30日)		回復状況	備考
	処理日数 (処理後)	症状	被害程度	症状		
2.		無		無		試験区2では、散布時の不慮の風で、薬液が少量茶葉に飛散した。薬液が付着した葉は褐変したものの、他の部位へ拡大しなかった。
3.		無		無		
4.		無		無		

発生しない場合でも記入する

注) 被害の程度： 無, 微, 小, 中, 大の5段階で記入

5. 茶の香りへの影響：

製茶を行わなかった為、不明。

IV. 考察 <除草効果, 薬害, 香りへの影響のほか, 設計変更, 特記事項など>

処理後2週間頃よりツクシの再生育がみられたものの、全般に高い除草効果が認められた。

茶樹にかからないように散布できれば、薬害は全く問題ないものとする。

V. 総合評価および実用性についての意見

区	薬量(/10a)	水量(/10a)	除草効果	薬害の程度	総合評点	実用性判定	備考
2.	300mL	100L	極大	無	A0	○	
3.	300mL	150L	極大	無	A0	○	
4.	300mL	100L	極大	無	A0	○	

使用基準, 普及指導上の参考事項, 継続の場合は改善事項など

茶葉に飛散しないように散布する